

原始古代の器 — その文様美と機能美 —



平成15年12月に太田市石原町にオープンしたイオン太田ショッピングセンター2階のイオンホールBにおいて、市内から出土した原始・古代（縄文・弥生・古墳・奈良・平安の各時代）の土器の展覧会を開催しました。

12月3日(水)から14日(日)までの12日間の開催期間中、午前9時から午後10時までの間、途切れることもなく、市内外から8,985名もの皆様のご来場をいただきました。

北関東最大の巨大ショッピングセンターのオープニングイベントであり、これまで当課が実施してきた事業とは全く異なる条件下での開催であったため、試行錯誤の連続でしたが、土器を間近で見るのは初めてという方も多く、市内からたくさんの土器が出土していたことに驚かれるとともに、太田市の歴史を再認識いただくことができました。



1万年前の土器「爪形文土器」を見入る見学者

とりわけ、東金井町の下宿遺跡から出土した、縄文時代草創期（今から約1万年前）の爪形文土器は多くの方々の注目を集めました。

金山城跡の調査

● 西城見附出丸の筋違い堀切を発掘！ ●

木枯らしの 侵攻さえも 拒む堀 乱世に生きて 今も威圧す…



そびえる土塁と切岸下の南堀切

見附出丸では、南虎口両脇の筋違いに配された堀切について調査を行いました。

←●南堀切

南堀切は、堀底が非常に丁寧に造られており、底面には西方向へ下がる段差も見られました。

南堀切の北斜面は急峻な切岸で、その上位には南土塁が存在します。この南土塁は、自然堆積した砂層の上に叩き締めながら土を盛っており、「水抜き」を意識して造られたと考えられます。この南土塁下に位置する南堀切は、防御機能だけでなく、南土塁から染み出た水をさらに西側へ処理するための機能もあったようです。

●北堀切→

北堀切は、石積みされた北土塁石垣の南下に存在し、堀の深さは約3mあります。

北堀切の堀底は、南堀切とは対照的に、岩盤節理によるガタガタな状態で、非常に「威圧感」溢れる様相を呈しています。

南堀切よりも1m程深く掘られていることや、堀底が粗雑であることから、かなり「防御」を意識して造られた堀切であると考えられます。

廃城後410年以上経過した現在でも、北堀切は、いかなる者の侵入も拒んでいるかのようです。



段差が見られた南堀切の底面

金山城跡現地説明会

■と き：平成15年9月28日(日)

■ところ：金山城跡 見附出丸

■参加者：約250名

調査・整備の進む金山城跡で、西側の防御の最前線と考えられる見附出丸周辺の発掘調査を行いました。その結果、石垣が多用されていることがわかり、現地説明会を開催しました。見学者は、石垣や岩盤を掘り込んだ横堀など、往時の土木技術の高さに感心していました。



説明会風景

整備と公有地化

西矢倉台周辺の整備



いかなる者の侵入も拒むかのような北堀切



威圧感溢れる北堀切の堀底

平成15年度における史跡金山城跡環境整備事業は、西矢倉台周辺について復元整備を行いました。

西矢倉台基壇の周辺では、馬場下通路へ連なる石敷きされた通路と西城方向へ降りる石階段について調査成果に基づき復元整備を行いました。また、南斜面に積まれていた石垣は、埋め戻し後に石を1列並べて、石垣の「天端石」としての表示を行い、石を積んでいた姿をわかりやすく表現しました。

西矢倉台下堀切では、堀切の戦国時代当時の形状をより理解していただけるように、堆積した土砂を50cm程掘削し、斜面に植栽を行いました。ここでは、岩盤まで掘り下げて整備した物見台下堀切とは対比的な整備を行っています。



西矢倉台下堀切の整備状況

史跡金山城跡の公有地化

金山城は、昭和9年に実城域から西城域までの尾根部分18.3haが国史跡として指定されていましたが、300haに及ぶ金山城全域から見れば指定範囲はわずかな面積でした。そこで、平成14年9月20日、金山城の主要な曲輪群である北城(坂中城)・八王子山ノ砦・土屋敷等が追加指定され、史跡面積は、当初の約5倍、97.8haとなりました。

しかし、史跡範囲には民有地が46.8haあり、城跡遺構群の保存管理と自然保全の積極的な推進を図

るため、史跡内に所在する民有地の公有地化事業を図ることとなりました。

公有地化事業は、平成14年度から着手し、平成14年度は36,490㎡、平成15年度は44,924㎡を公有地化しました。これにより、公有地面積は約59ha、公有地化率61%となりました。

引き続き平成16年度以降も積極的に公有地化を進め、史跡金山城跡の保護を図るとともに、歴史学習の場・憩いの場として一層の活用を図ります。

埋蔵文化財の公開・展示

●埋蔵文化財最新情報展

■期 間：平成15年4月26日～7月13日

■観覧者：887名

平成14年度に太田市教育委員会が発掘調査した市内の5遺跡について、出土遺物などを中心に発掘調査成果の一部を速報展として展示しました。

■展示遺跡：強戸口遺跡群・新野脇屋遺跡群・
東矢島古墳群・宮内遺跡・本陣跡

高山彦九郎記念館2階にある展示室を会場として3つの展示会を開催いたしました。



●「いま、解き明かされる金山城」展

■期 間：平成15年7月19日～12月7日

■観覧者：4,170名

平成6年度から始められた金山城の発掘調査で出土した火縄銃の弾、茶道具（陶器）、すずりなど63点の出土品や発掘調査・整備に関わる写真パネル57点を展示しました。

あわせて、月ノ池と日ノ池との間に当たる「大手虎口中央通路周辺」（写真上）や、西城と実城の間地点に当たる「物見台周辺」（写真下）の2箇所のイメージ立体模型を35分の1の縮尺で制作・展示しました。この模型では、現地では復元されていない門や櫓などの建物も設置しました。また、実際の大きさを感じ取っていただくため、同じ縮尺の戦国武者人形で合戦の場面を作りました。敵が攻めにくくするための城造りの工夫の様子などについて、小さな子供たちも真剣に見入っていました。



●「縄文土器の美」展

■期 間：平成15年12月23日～平成16年4月11日

■観覧者：1,302名

これまで市内各地で発見された多くの縄文土器の中から、爪で文様を付けた「爪形文土器」のほか、「多彩な縄文と竹管文様」や「大きな渦巻や唐草の文様」など、特に特徴的な文様が付けられた37点の土器を厳選し、展示しました。





移動はにわ展

平成15年度は「みて・ふれて・感じて！」をテーマに市内7つの小学校を会場に「移動はにわ展」を開催いたしました。

子供たちは、市内各地で発見された“はにわ”や“土器”などに直接触れて古代の人々に思いをはせていました。また、土器の接合体験や復元した古代衣装を実際に着るなど、さまざまな体験をしました。さらに宝泉東小学校では、4～6年生を対象として「はにわの話」と題して講演も行いました。



古代衣装の着心地は？（中央小）



文化財クイズに挑戦 全問正解できるかな？！（太田小）



何秒でできるか？土器接合体験（南小）



へえ～、そうなんだ～「はにわの話」（宝泉東小）



「これ何のはにわ？」「ハイ!!」（宝泉小）



「これは白鳥の頭だよ」「えっ?!!」（毛里田小）



休み時間は大盛況！（強戸小）

新田荘ふれあい探検スタンプラリー



円福寺・十二所神社（茶臼山古墳）



(上)塚廻り古墳群第4号古墳、(中)天神山古墳、(下)曹源寺さざえ堂

太田市・尾島町・新田町の1市2町には、新田氏にゆかりの深い11カ所の遺跡からなる国指定史跡「新田荘遺跡」など数多くの文化財や、それらにちなんだいくつかの資料館などがあります。その内の22カ所にスタンプを設置し、夏休み期間中(平成15年7月19日～8月31日)にめぐる「新田荘ふれあい探検スタンプラリー」を、1市2町各教育委員会の共同事業として実施しました。

今回で3度目となるこのラリーは、だれでも無料で参加でき、小中学校の児童・生徒やその家族、個人、友人同士など2,000人を超える人が参加して、思い思いのコース順や日程で、郷土の歴史の香りや自然などを満喫しました。

18カ所以上回った人には、スタンプ帳に修了認定印が押され、記念品としてペットボトルホルダーが贈られました。

金山青年の家ホール展示



金山青年の家にある玄関ロビーの一角に、須恵器を展示しています。

展示している須恵器は、今からおよそ1500年前に金山の東麓(松風峠東側入口周辺)に造られた窯で焼かれたものです。この須恵器が生産された当時、金山周辺は関東を代表する焼き物(須恵器・埴輪)の生産地のひとつでした。金山周辺の焼き物生産は、いまから1100年ほど前(平安時代中頃)まで盛んに行われました。さらに、平安時代には鉄の生産も行われていました。



文化財講演会

■と き：平成16年2月29日(日) 午後1時30分

■ところ：太田市学習文化センター視聴覚ホール

■参加者：450名

- (1) 基調報告：「成塚向山1号墳—未盗掘の前期古墳が語るもの—」坂井 隆先生〔(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団〕

新聞報道等で未盗掘の古墳として非常に注目されている「成塚向山1号墳」の発掘調査について、基調報告をしていただきました。受付には、出土品(鉄剣4点)や写真パネルを展示しました。

- (2) 講演：「毛野における初期古墳文化の波及—天神山古墳成立前夜—」大塚初重先生〔明治大学名誉教授・群馬県文化財保護審議会委員〕

東国最大の前方後円墳である「天神山古墳」と中央との関りや、長持形石棺等について、やさしく詳細に講演されました。来場者は、先人達へ思いを馳せながら熱心に聴き入り、貴重な歴史遺産が身近にあること、そして、情熱を込めた気迫ある先生の講演に感銘を深くしていました。



講演する大塚先生(上)と坂井先生(下)

史跡めぐり

■テーマ：「秩父の文化財を訪ねて」

■と き：平成15年10月5日(日)

■ところ：秩父まつり会館・秩父神社・秩父ふるさと館
(相田みつをギャラリー)・秩父札所第一番四
萬部寺

■参加者：37名

秩父市には日本三大曳山祭の一つに数えられる「秩父夜祭」があります。この日は、まつり会館における「夢の実会」(お囃子保存会)による実演の初日でした。迫力あふれる太鼓の響きが、身体を突き上げるように伝わって、まるで夜祭にいたようでした。秩父神社では、屋台幕・水引幕などの陰干しや車輪の手入れをしている所で、特別なお好意により、幕の豪華秀麗な刺繍を真近に見せていただき、参加者は感激していました。好天にも恵まれ、ゆっくりと秩父の文化財を堪能することができました。



秩父札所第一番四萬部寺にて

文化財愛護少年団・文化財教室



文化財愛護少年団では、文化財の見学・体験やボランティア活動を通して、楽しく太田市の歴史や文化を学んでいます。市域とその周辺の素材を活かして活動を行い、身近な地域を理解するとともに、団員同士の仲間づくりも進めています。

平成15年度の第1回活動は、7月13日(日)、文化財教室と合同で、福島県白河市へのバスツアーを行いました。白河関跡では、郷土の先人「高山彦九郎」の足跡をたどり、感慨を新たにしました。福島県文化財センター白河館「まほろん」では、遺跡とその出土品を通して、古代人の生きる力に学びました。

第2回活動は、8月25日(月)、「新田荘ふれあい探検スタンプラリー」(別記)に参加しました。各ポイントをまわり、文化財の学習を行いながら、ゴミ拾いにも取り組みました。楽しく地域理解を深めるとともに、ひと夏の汚れを取り払い、良好な史跡環境の維持に貢献することができました。

金山城跡自然探訪会



金龍寺～西山公園にかけての自然探訪



整備された「栈道」の解説を聞く参加者

- テーマ：～金山の新緑を味わいませんか～
- 講 師：松澤篤郎先生（県自然環境調査研究会員）
- と き：平成15年5月25日(日)
- ところ：金山西山公園及び金山山頂部～西城
- 参加者：40名

第7回を迎えた今回の金山城跡自然探訪会では、晩春の草花、樹木の様子を観察し、植物の分布状況について学習すると共に、「山菜の見分け方と山菜採りのマナー」についても学習しました。

昼食時には、参加者は「山菜の調理方法」についての説明に耳を傾けながら、ヨモギ、コンフリ、ウド、サンショ、クサギの天ぷらや、ワラビの塩漬けなどの山菜料理に舌鼓を打っていました。

山菜採りや山菜料理を通じて、金山の自然を見直す良い機会になったようです。

さらに、自然探訪と併せて西矢倉台西堀切内の通路や全国初の整備となる栈道(かけはしみち)等の金山城跡の整備状況についての解説もあり、自然と共に歴史についても学ぶ充実した一日となりました。



新野脇屋遺跡群（第10次）

■調査場所：太田市城西町地内

■調査期間：平成15年5月1日～平成16年3月24日

■調査面積：14,590㎡

新野脇屋遺跡群の発掘調査は、住宅団地造成事業（城西の杜）に伴い、造成地内の新設進入道路及び商業エリアを対象として、遺跡の記録保存を目的とした発掘調査を実施しています。これまでに、約41,700㎡の面積を調査しました。平成16年度に新野脇屋遺跡群発掘調査を終了する見込みです。

平成15年度の調査では、今から4000年程前（縄文時代中期）、1600年程前（古墳時代前期）、1400年程前（古墳時代後期）、1200年程前（平安時代）の各時代の竪穴住居跡を合計14軒確認しました。

また、古墳時代前期の方形周溝墓や古墳時代後期の古墳跡を合計22基確認しました。このほか、朝顔形の円筒埴輪を転用した棺や多くの溝址も調査しました。

これまでの調査では、120軒を超える住居址、40基を超える周溝墓・古墳を確認しました。



▲第120号住居址（古墳時代後期）



◀住居址のカマドと甕・コシキの出土状況（古墳時代後期）



▲方形周溝墓（古墳時代前期）



◀同周溝内より出土した壺

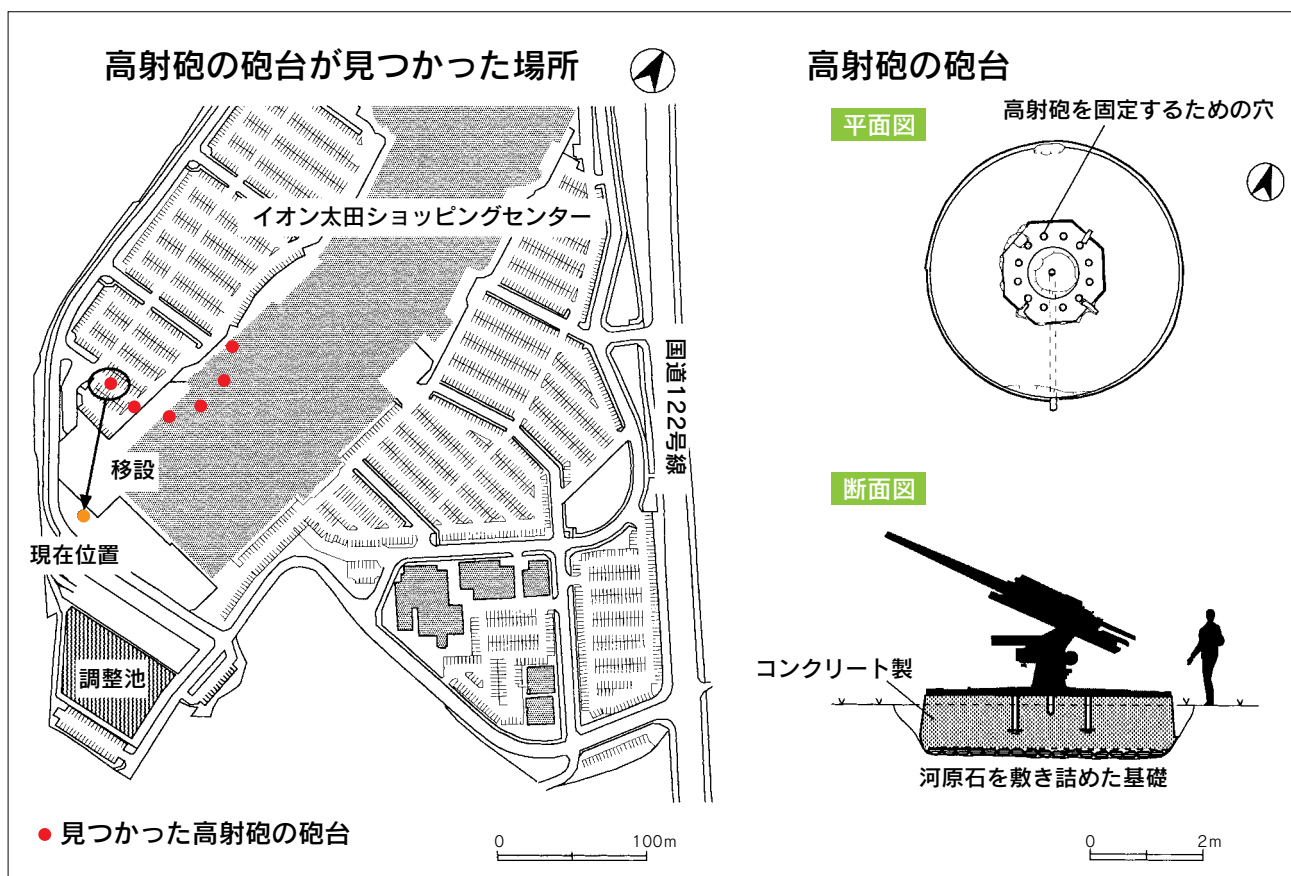


縄文時代中期の住居址から出土した土器



第95号土壌の朝顔形円筒埴輪を転用した棺（古墳時代前期）

高射砲陣地跡



- 調査場所：太田市下小林町500ほか
- 調査期間：平成15年4月30日～5月7日
- 調査面積：80㎡

この高射砲陣地は、太平洋戦争（第2次世界大戦）当時、旧陸軍によって配備された航空機を撃墜するための大砲を乗せた砲台があった場所です。

イオン太田ショッピングセンター建設に伴う発掘調査で、6基の砲台が見つかりました。砲台は、直

径約4.5mの低い円柱形のコンクリートで造られており、上面には高射砲を固定するための穴が13カ所開いていました。これら6基の砲台は、約24m間隔で扇形に配置されていたこともわかりました。

見つかった6基の砲台のうち、最南端の砲台については、イオン太田ショッピングセンターの協力により、ショッピングセンター内の公園に移設し、説明板を付け野外展示されています。



相場観音経塚



第2号経塚経石出土状況



発見された一字一石経

■調査場所：太田市矢場町2965-1

■調査期間：平成15年10月15日～平成16年1月30日

■調査面積：22㎡

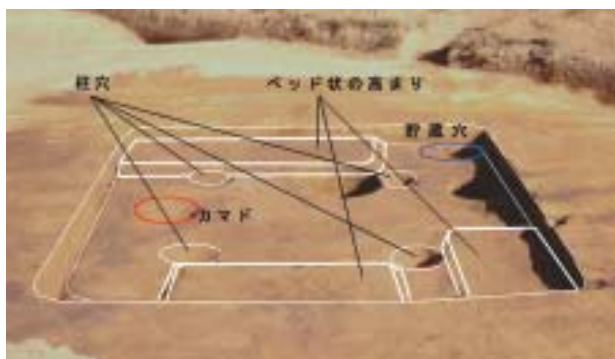
観音堂移築工事に伴い、経石が発見されたため、地元有志の協力を得て、確認調査を行いました。

調査の結果、二カ所の経塚が確認されました。第1号経塚は「奉納大乘妙典一字一石之寶塔」と銘のある経塔下50cmから36,500個の経石が、径1.8mの円形の穴から出土しました。第2号経塚は、「般若塔」銘のある石塔下15cmから、4.6m×3.1mの長方形に掘られた穴から171,000個の経石が出土しました。経石は、合計で207,500個ありました。経石は、小石にお経を墨書したもので、「法華経」と考えられます。経文の他に、「いろは」「にほ」と書いたものもみつかっております。また、第1号経塚の経塔には、宝永7年(1710)の紀年銘があり、第2号経塚の般若塔にも「子九月一日 施主 惣八」の銘があります。二つの経塚は、江戸時代中期頃に前後して経石を埋納し、経塔を建立したと考えられます。

下田島遺跡（Ⅱ・Ⅲ次）



1号墳全景（南から）



1号住居址全景（西から）

■所在地：太田市下田島町1057-1

■調査期間：平成15年9月16日～10月15日（Ⅱ次・確認調査）、平成15年10月27日～平成16年1月26日（Ⅲ次・本調査）

■調査面積：約1,300㎡

宝泉南部土地区画整理事業に伴う下田島遺跡（Ⅱ・Ⅲ次）の発掘調査では、縄文時代後期（今から約3000年前）の土壌や、4世紀前半の住居址、5世紀後半の円墳、14～15世紀の地下式横穴などが確認されました。

特に4世紀前半の住居址は、周囲に溝が掘られており、カマドや柱穴の他、三カ所にベッド状の高まりが確認され、ミニチュアの壺形土器などが出土しました。おそらく祭祀にかかわる建物であったと考えられます。また、円墳は大小合計4基確認され、円筒埴輪片が多数出土しました。地下式横穴は、中世のお墓であると思われます。

東矢島遺跡群（第21次） — 東矢島古墳群 —

- 調査場所：太田市南矢島町660－8ほか
- 調査期間：平成15年8月1日～8月27日
- 調査面積：75㎡

東矢島土地区画整理事業に伴い、市道建設予定地にかかる古墳の周堀部分の発掘調査を行いました。調査区は、平成14年度調査区域の東側隣接地にあたります。調査の結果、平成14年度に調査した古墳（円墳）の周堀が東側に伸びており、周堀内からは少量の円筒埴輪片が出土しました。古墳はすでに削平されていましたが、調査の結果、古墳の墳丘径は16mになります。



周堀発掘調査作業風景

旧太田工業高校北裏遺跡（Ⅱ次）

- 調査場所：太田市東長岡町地内
- 調査期間：平成15年7月14日～8月13日
- 調査面積：500㎡

渡良瀬川中央農地防災事業による大谷幹線遊水池の新設工事に伴って、確認調査を行いました。事業地に大小16本の試掘トレンチを設定し、遺構の有無を確認しました。その結果、事業地では遺構は確認されませんでした。



試掘トレンチ設定状況

舞台D遺跡（Ⅱ次）

- 調査場所：太田市西本町地内
- 調査期間：平成15年10月16日～24日
- 調査面積：84㎡

太田英語教育特区校校舎建設事業に伴って、確認調査を行いました。大小3本の試掘トレンチを設定し、遺構の有無を確認しました。その結果、遺構は確認されませんでした。



試掘トレンチ掘削状況



中西田遺跡（第7次）

■調査場所：太田市内ヶ島町2055

■調査期間：平成15年4月30日～5月29日

■調査面積：200㎡

民間開発に伴い、工事に先立ち発掘調査を行いました。調査の結果、5世紀後半頃（古墳時代中期）の竪穴住居跡が2軒、9世紀頃（平安時代初期）の竪穴住居跡が2軒確認されました。また、溝址（時期不明）が1条確認されました。古墳時代の竪穴住居址は、耕作等による破壊を受けており、柱穴と炉址のみの発見でしたが、平安時代の竪穴住居跡からは、甕や杯などの土器片が出土しました。



平安時代竪穴住居址調査状態

出土遺物整理作業

文化財課では、発掘調査報告書の刊行や展示会に備えるため発掘調査で出土した土器などを接合・復元し、実測などの作業を継続して行っています。

平成15年度は、新野脇屋遺跡群（城西町）や下田島遺跡（下田島町）、東矢島古墳群（南矢島町）から出土した土器や埴輪の接合や復元のほか、相場観音経塚（矢場町）出土の経石整理などの作業を行いました。整理した資料の一部は『市内遺跡20』として刊行したほか、さまざまな展示会で公開しました。



土器や埴輪の復元作業

事前協議

平成15年度 事前照合件数および調査面積

内 容	公共事業	民間事業	計
事前照合	10件	446件	456件
試掘調査（回答）	4件	25件	29件
立会調査（回答）	4件	67件	71件
慎重工事（回答）	1件	116件	117件
試掘調査	4件	9件	13件
立会調査	1件	23件	24件
本調査	2件	2件	4件
試掘調査面積	1,168.0㎡	194.6㎡	1,362.6㎡
立会調査面積	3.0㎡	1,472.8㎡	1,475.8㎡
本調査面積	1,375.0㎡	280.0㎡	1,655.0㎡

試掘調査

遺跡名	試掘調査区域	試掘調査期間	原因者
東矢島古墳群	太田市南矢島町97街区4他	平成15年4月10日	民間
天狗林遺跡	〃 由良町947-1他	平成15年4月30日	民間
天神山古墳	〃 内ヶ島町1543-2他	平成15年7月14日	民間
川向・中西田遺跡	〃 内ヶ島町2053	平成15年7月17日	民間
旧太田工業高校北裏遺跡	〃 東長岡町7-1	平成15年7月14日～8月7日	国
屋敷東遺跡	〃 富沢町175	平成15年9月11日	民間
下田島遺跡	〃 下田島町1057-1	平成15年9月16日～10月15日	市
神明遺跡	〃 龍舞町1909-20他	平成15年10月22日	民間
舞台遺跡	〃 西本町69-1	平成15年10月16日～10月24日	市
西田島遺跡	〃 下田島町1243-102	平成16年1月29日	民間
田谷遺跡	〃 東矢島町1420-2他	平成16年1月19日～1月27日	市
富沢古墳群	〃 富沢町409	平成16年2月25日	民間
間之原遺跡	〃 龍舞町67-3地先他	平成16年1月20日・2月3日・2月6日・3月3日	市

指定文化財説明板・標識柱の設置

●富若の名号角塔婆

(市指定重要文化財)

富若の名号角塔婆は、平成6年12月12日に市の重要文化財に指定されましたが、未設置だった説明板・標識柱を新設しました。

名号角塔婆は、中世に浄土信仰者によって建立された角柱状の供養塔です。富若の角塔婆は、高さ78cm、幅28cmを有し、四面に「南無阿弥陀佛」の名号を刻み、正面には「永仁5年(1297)」の紀年銘があります。石材は新田郡笠懸町天神山産の白色凝灰岩を用いており、その所在は、群馬県東部の旧山田郡内の一部に限定されます。

永福寺(東金井町)や曹源寺(東今泉町)、そし



富若の名号角塔婆説明板(左)と標識柱(右)

て矢田堀勘兵衛屋敷(矢田堀町)の名号角塔婆と同様、葛田氏との関わりがあるものと考えられます。

倒木・枯木伐採

稲荷山古墳伐採処理状況



台源氏館跡



天神山古墳伐採処理状況

●稲荷山古墳(市指定史跡)

平成15年5月、市指定史跡「稲荷山古墳」の頂上部にあるシイガシ1本とスギ2本が落雷を受けて枯れてしまい、文化財保護及び来訪者・通行者の安全性を確保するため伐採処理しました。

●天神山古墳(国指定史跡)

平成15年7月、天神山古墳の墳丘南西端に存立するアカマツと、西側に存立するエゴが立ち枯れし、腐食が進み倒れてしまいました。墳丘の保護・景観の保全及び来訪者の安全性の確保の観点から、他に立ち枯れのアカマツ1本を含めて3本を伐採処理しました。

●台源氏館跡

平成15年11月、台源氏館跡内に存するアカマツ2本が落雷の影響で立ち枯れ、来訪者への安全性に配慮して伐採処理し、同時に他のアカマツ3本に文化財保護・保存の立場から、ステミックス(活性剤)を施しました。また、通行障害となっていた、北西市道側に延びたモッコクの枝降ろしをしました。



文化財の修理

●沖之郷祇園山車(西新耕地)修繕

(市指定重要有形民俗文化財)

沖之郷祇園山車は、東南耕地・西新耕地、北耕地の3台あり、沖之郷祇園祭りの際、3年ごとに巡行されます。江戸時代の山車としては、市内で巡行される唯一のものです。

文化財保護の観点から、昨年度より老朽化した山車の全面修復復元を3カ年事業として位置づけ、今年度西新耕地を修復復元しました(平成14年度東南耕地修復終了、平成16年度北耕地修復予定)。

修復概要：①全面解体 ②木補修(屋根材等の腐朽木材の取替、彫刻部分の復元等)③建具取替え他 ④塗装(全面漆塗り塗装へ復元、彩色・金箔の復元塗装)⑤金具補修(既存の金具に金箔を施し補修)

●太田夏まつり「沖之郷祇園山車巡行」

■展 示：平成15年7月19日(土)

午後4時～ ナカムラヤ北駐車場

■式 典：平成15年7月20日(日)

午後4時～4時30分

■巡 行：平成15年7月20日(日)

午後4時30分～6時30分

本町通り(ナカムラヤ北～富士重工業(株)群馬製作所正門南)

■協 力：沖之郷町区民約150名

文化財の公開・活用・文化財愛護思想の普及という観点から、修復された市指定重要有形民俗文化財である「沖之郷祇園山車」の巡行を、市制施行55周年記念事業の一環として位置づけ、「太田夏まつり」において巡行しました。見事に修復された山車や引き廻し等のパフォーマンスを交えながらの巡行に市民も感激していたようです。



沖之郷祇園山車巡行(西新耕地の引き廻し)



改築された保管倉庫(西新耕地(左)、北耕地(中)、東南耕地(右))

●沖之郷祇園山車保管倉庫改築

沖之郷町区民によって従来の保管倉庫を部分解体し、修復された山車の保護・保存のため、嵩上げ工事(鉄骨造)を実施しました。これによって山車を組立てたままの状態で保管することが可能となりました。

●旧金山図書館(市指定重要文化財)

市指定重要文化財「旧金山図書館」の屋根の鬼瓦が積雪により落下、また軒天の野地板が破損したため、文化財保護・保存の観点から、同一仕様鬼瓦・野地板を作成し、設置替えしました。



旧金山図書館修復状況

日ノ池木炭浄化装置修繕



日ノ池は、金山城跡を代表する景観のひとつです。池の底には、史跡整備の過程で木炭浄化装置を設置し、恒常的に水質の維持を図っています。この装置は平成8年に設置されて以来、常時稼働させてきた水中ポンプですが、老朽化により使用不能となってしまいました。そこで、機器を更新するとともに、装置全般の点検を行い、併せて不要な藻類を除去しました。なお作業に当たって、一時的に池の水をすべて抜き取りましたが、終了後は再び、雨水と周りから差し来る水で満たされて行きました。

金山城保存会の活動



金山城跡の歴史的景観を市民のボランティアで維持しようと、「金山城保存会」が発足しました。金山では近年、史跡の復元が進む一方、整備範囲が拡大したことにより、日常の管理が難しくなってきました。保存会では、復元整備の完了したエリアにおいて、草むしりや落葉清掃などの作業を、会員26人によって精力的に取り組んでいます。難攻不落を誇った往時の姿が、いつでもきれいに見られるよう、皆様の参加をお待ちしております。

文化財模擬火災訓練

1月26日は、国宝の法隆寺金堂壁画が焼失した日（昭和24年）にあたり、昭和30年、この日を「文化財防火デー」と定めて毎年全国的に文化財防火運動が展開されています。

本市でも、太田地区消防組合及び関係機関・地元住民の協力のもと、毎年この日に近い日曜日に「文化財模擬火災訓練」を実施しており、第50回目にあたる今回は、平成16年1月25日、東今泉町の曹源寺さざえ堂（県指定重要文化財）で行いました。

訓練は、午前9時にさざえ堂から出火の設定で発炎筒が点火され、消防署への通報、文化財非常持ち出し、初期消火作業、消防車及び救急車・救命ライダー出動、一斉放水など一連の作業が手際よく行われました。



水煙幕と一斉放水



高山神社社宝展

■と き：平成15年11月1日(土)～12月7日(日)

■ところ：高山彦九郎記念館2階展示室

■主 催：太田市教育委員会

■来場者：880名

本年度、高山神社宮司久保田健一氏から、太田市教育委員会に対して、高山神社の社宝である高山彦九郎置手紙・櫛・水注・沓・烏帽子・笏・天杯・遺髪ほか高山彦九郎遺品資料を寄託（＝所有権を移さず資料を預かること）いただきました。

そこで寄託記念の公開事業として、高山彦九郎記念館において32日間にわたり「高山神社社宝展」と題して特別展示を行いました。

今回の展示品の多くは、高山神社創建時または創建直後に所蔵者から神社に奉納されたものですが、彦九郎の思想に共鳴し、彦九郎を先達として慕う幕末の志士など、様々な人物の手を経て伝わってきた遺品であり、誰からどのように彦九郎が評価されてきたかを知る手がかりともなるものです。



高山彦九郎置手紙



高山彦九郎・叔父劔持長蔵着用の烏帽子

岩手県久慈市 琥珀親善大使来館

■と き：平成15年11月8日(土)

■ところ：高山彦九郎記念館

岩手県久慈市から、琥珀親善大使3名・琥珀口マンチック街道キャラバン隊員17名からなる使節団が久慈市長のメッセージを携えて来太しました。

今回の訪問は高山彦九郎が寛政2年（1790）に久慈の琥珀鉱山を訪れ、詳細な記録を残しており、まちの歴史解明に一役買っているという縁によるもので、特産の琥珀によるまちおこしを行う久慈市の民間団体「くんのこほっぱの会」（くんのこほっぱは琥珀鉱山の意の方言）が中心となり、地元の行政や各種団体と連携して実施された事業です。

仙台市を経て太田市に到着した琥珀大使・キャラバン隊一行は高山神社見学、太田市役所ロビーでの記念行事の後、高山彦九郎記念館を訪れ、高山彦九郎研究会会員や行政サポーターの解説により、展示室や高山彦九郎宅跡・遺髪塚を見学、交流を深めました。その後、次の訪問地である東京銀座へ向かいました。



サポーターの説明を受ける琥珀大使



高山彦九郎記念館を訪れた琥珀大使・キャラバン隊一行

行政サポーターズ

●記念館のサポーターとして思うこと

サポーターとして一番嬉しく思うのは、来館された方々が「来てよかった。また訪れたい。」と仰ってくださることです。対話し交流する中で、多くのことを学ばせて頂いております。今後も、確かな情報を来館者にお伝え出来るよう、さらに知識を増やして行きたいと思っております。(片貝裕子)

●高山彦九郎記念館と“癒し”

真正面な彦九郎の人間性に癒しを感じるが、記念館には、他にも癒し系が多くある。水琴窟の音色、緋毛氈、鹿威しの音、威風堂々とした松、春の新緑、夏の緑濃い苔類、秋のモミジ類の錦織り成す紅葉、冬の可憐な寒桜。乞うご期待。(宮内正之)

●お立ち寄りください！

市民の皆様、高山彦九郎記念館へ寄っていただけませんか。私達が高山彦九郎の事跡を案内していますが、来館される方々の大半は市外・県外の方です。市民の皆様にも、一度来館され、ぜひ郷土の先達の歴史に触れてみて下さい。偉人の館でお待ち申し上げます。(小林良男)

●高山神社拝殿の行方

記録で、「神社仮普請のため朽廃極みに達し、神前に雨漏り」とある。昭和7年新殿完成。旧拝殿は、解体しないで移動し、別所の十二所神社に設置されたとのこと。現状は、本殿を覆うように移設されています。おそらく、由良新道、脇屋新道を運ばれたのでしょう…。サポーターをやりながら、知る事の波紋が次々と広がって行きます。(茂木好夫)

●新しい道を選んで

「森の中で道が二つに分かれていた。そこで、私はあまり人の通らない方の道を選んだ。するとそこには全く別の世界があった。」この詩との出会いで、彦九郎を通して歴史の事実を紐解き、日本の文化にも触れることが出来ました。今、この感動を皆様にお伝え出来ることが私の喜びです。(朝倉節子)

●高山彦九郎を知っていますか

私は見学者に対し、まず、「高山彦九郎を知っていますか。」と問いかけます。高山彦九郎は、幕末の志士達に強い影響を与え、吉田松陰の先生とされている人です。このようなメジャー級の人物がなぜ知られていないのか、見学を終わった時に知ってもらうよう、解説に心がけています。(茂呂進治)

●私の記念館案内

来館者の大半が高山彦九郎という人物を知らない方です。そのため、歴史年表を活かして、時代背景の中で理解してもらうように心掛けています。また、高山彦九郎の強い意志と行動力、損得なしに全国行脚したこと、光格天皇との接点、九州久留米での自刃などを物語風に説明しています。(福地市松)

●継続

思い返せば11年前、鬱蒼とした山林が高山彦九郎記念館に生まれ変わった姿を見て以来、土日対応の臨時職員時代を経て現在のサポーターの勤めまで、多くの人に出会い、自分の知らないことの多さに驚いています。これからも毎日が勉強という気持ちで頑張りたいと思います。(蓮沼俊宏)

入館者状況

高山彦九郎記念館の入館者数は、開館した平成8年度の19,814人をピークに、年々減少の一途をたどり、平成13年度には4,789人まで落ち込みました。人物記念館という性格上、リピーターが少ないという特徴があり、やむをえない部分もありますが、太田市教育委員会では、高山彦九郎に限定せず、文化財全般に亘る展覧会の開催や、「新田莊ふれあい探検スタンプラリー」のチェックポイントとするなどにより、平成14年度以降やや持ち直し、平成15年度には6,995人の入館者を数えるように回復しています。

入館者数の推移

年 度	入館者数	備 考
平成8年度	19,814人	5月3日開館
平成9年度	9,362人	
平成10年度	7,663人	
平成11年度	6,993人	
平成12年度	5,669人	
平成13年度	4,789人	
平成14年度	5,927人	
平成15年度	6,995人	



金 山城跡 (南曲輪休憩室ノートより)

平成15年6月5日(木)

涼しいさわやかな風を求めて来て良かった。きれいにしていただいて有難う。一人でも安心して登れます。64歳、歩くことしか何もない私。いつまでも来て景色を眺めたいと思う。

平成15年6月20日(金)

ゆかしい山城を見て感銘深し。市職員の説明も丁寧で良かった。保存・修復作業の大変さを痛感。またの機会に訪れたい。
(越谷市 M.N.)

平成15年8月11日(月)

30年ぶりに金山へ来ました。子供の頃とは大分変わり、城跡が美しく整っているのにびっくりしました。今回は、主人と子供達に、私の故郷を見せられてとても嬉しいです。
(M.T.)

平成15年11月2日(日)

金山城が良くてまた来ました。大光院の菊花大会を見て、西山から登って来ました。知久平翁の銅像も紅葉に飾られて喜んでいるようです。

- ・天高し 赤松の山 登りけり
- ・あざみ咲く この山坂に 凜として
- ・金山に 英語も混じる 秋日和

(深谷市 U.S.)

平成16年1月24日(土)

上毛新聞を見て登って来ました。案内コースの道に、細かく歩く時間を記入していただけると有り難いのですが、とても楽しく勉強になりました。来年も来たいと思います！管理をいただく皆様方有難うございます。かしこ

平成16年1月29日(木)

今、14℃暖かい。新田町木崎からバイクで来て、いつも高山神社から歩いて、八王子山から金山山頂へ登ります。下草も刈ってあって、明るいハイキングコースを造っていただき感謝します。健康管理のため、金山にハイキングに来たいと思います。昨日は、近くの山で山火事があったようです。注意したいものです。いつまでも良い山であるようにと願っております。私は、2月8日で65歳になります。

平成16年2月21日(土)

春日山城など色々な城跡を見て来ましたが、昔をそのまま生かしてこのようにつくられた城跡は初めてです。当時の様子がよくわかります。今までで一番勉強になりました。これからも、もっとわかりやすく、もっとくわしく城跡のふくげんを進めてくれたらうれしいです。
(東京都 Y.K. 中三)

高 山彦九郎記念館 (御意見帳より)

平成15年8月7日(木)

とても良い説明をいただき、改めて偉大な人物であると思いました。孫も模型に釘付けです。歴史に興味を持ってくれることを楽しみにしています。

平成15年9月27日(土)

すばらしい(金山城)模型です。金山城の復元整備に大いに期待します。全体の模型を是非展示してほしいです。

平成15年10月24日(金)

高山彦九郎先生の偉業は、小学校で教えられましたが、色々な面で我々を諭した逸話を、今の子供たちに話して聞かせることが、これからの自分達の果たす役割と定め、国のため郷土のために為す人間になるよう教えてやりたい。

平成15年11月9日(日)

さまざまな目線から見ると、城の工夫が良く分かりました。実城の模型も見たかったです。また、金山城そのものの復元に大きな期待を寄せています。現在進められている復元も、残っている石を生かしながらやっている点がすばらしいと思います。コンクリートを使ったり、いかにも「城」らしいものを造るのではなく、当時の姿を限りなく再現することで、私たちに、この町、この地域の歴史の奥深さを感じさせてほしいと思います。

平成16年2月22日(日)

『風雲児たち』を読んで彦九郎のことを知りました。もっとよく知られて良い人物だと思います。N



金山城跡投句箱

史跡整備が進む金山城跡を、より多くの方に活用していただくため、山頂（南曲輪）の休憩施設内に「投句箱」を設置しました。金山城跡を訪れた記念に、歴史や自然など印象に残ったことを、俳句として詠んでいただこうとするものです。今後、投句箱は年に4回開き、「太田俳壇」の協力を得て、特選作と佳作を選びます。入選作品は短冊に揮毫して、休憩施設内に1ヵ月間掲示させていただきます。皆様の投句をお待ちしております。

文化財愛護少年団団員の募集！

文化財を楽しみながら仲間作りをしませんか。小学校5年生～中学校3年生までの児童・生徒で、歴史やボランティアに興味がある方ならどなたでも。

金山城保存会会員の募集！

金山城跡を清掃しながら、併せて歴史を学んでみませんか。毎月2回（不定期の金・土曜）、山頂付近で作業をしています。年齢は問いません。

これからの文化財行政 — 市町村合併に向けて —

文化財課長 諏訪 和雄

現在、太田市・尾島町・新田町・藪塚本町の1市3町で合併協議会を発足し、平成17年1月の合併に向けて、新市での市政運営のための各般にわたる協議が進められています。文化財行政についても、その通りです。

文化財は、国・都道府県・市町村と、それぞれ指定内容によって区分されていますが、国民（市民）にとっては、後世に伝えるべきかけがえのない財産といえます。こうした文化財は、地域の歴史や伝統などを反映したものであるばかりか、地域の誇りでもあります。であるからこそ、文化財は大事に保護・保存されるものなのです。

こうした観点から合併の枠組みで考えて見ますと、1市3町、それぞれ独自の文化を保有しておりますが、広域的に捉えると、中世「新田荘」の区域に包含される地域です。新田荘は、平安時代末期の12世紀中頃に立荘された荘園です。その代表的な荘園遺跡である11ヵ所からなる複合遺跡が、史跡「新田荘遺跡」です。史跡は、太田市に2ヵ所（円福寺境内、十二所神社境内）、尾島町に4ヵ所（総持寺境内、長楽寺境内、東照宮境内、明王院境内）、そして新田町に5ヵ所（生品

神社境内、反町館跡、江田館跡、重殿水源、矢太神水源）の11ヵ所で、その近辺には新田荘ゆかりの文化財もあります。

今後は、このように点在する史跡を、新田荘という面的な複合的歴史遺産として整備・活用する方策が必要と思います。その一つの試みが、文化庁の助成事業である「ふれあい歴史のさと研究事業」であったと考えます。史跡「新田荘遺跡」の平成11～13年度の3ヵ年にわたる活用研究事業で、イベントによる史跡の周知、史跡の教材化等を中心とした事業であり、県と地元3市町が共同して実施した事業です。教育普及という一定の成果はあったと考えるものです。今後は、地域の歴史遺産として、史跡金山城跡を含めた総合的な整備を積極的に進め、活用をさらに広めて行く必要があると思います。また、積極的な普及啓発を図るための拠点施設の設置を検討することも必要と考えます。

いずれにしても、国民（市民）共有の財産である文化財は、「地域で守り、地域で育て」活用すべきもので、そこには地域に誇りと愛着を持つ心が育つものと思います。

◆文化財課◆ Eメールアドレス：040700@mx.city.ota.gunma.jp